



# 化石館だより

## コラム

## 右巻きの貝と左巻きの貝

身近にいるカタツムリは、右巻きですか？ それとも左巻きですか？

カタツムリは知っていても、殻の巻き方をじっくりと観察することはあまりありませんね。そもそも、右巻きと左巻きはどこで見分けるのでしょうか。



アカニシ



センジュガイ



アンボイナ

巻貝の巻き方は、とがっている方を上にして見たとき、貝殻の口の部分が中心軸より右側に見えれば右巻き、左側に見えれば左巻きとなります。写真の貝はどれも右巻きです。食用にされるサザエやバイガイも右巻きです。実は海産の巻貝では、9割以上が右巻きなのです。左巻きの巻貝もありますがとても少なく珍しいのです。

淡水の巻貝にモノアラガイという貝がいます。2 cmほどの卵型の貝で、淀んだ小川や水田、ため池、沼などに生息しています。同じような場所に、モノアラガイによく似たやや小さい（1 cm前後）サカマキガイという貝が生息しています。最近はモノアラガイが少なくなり、サカマキガイが圧倒的に多くなりました。サカマキガイの名称ですが、これは殻が左巻きであること、通常右巻きが多い中で逆に巻いていることから名づけられたものです。田んぼのタニシや、ゲンジボタルの幼虫のエサとして知られるカワニナなどの殻は右に巻いています。淡水の貝もその多くは右巻きの貝なのです。

さて、陸産の巻貝（陸貝）であるカタツムリはどうでしょう。カタツムリは、陸貝の中でもマイマイと呼ばれる丸みを帯びた饅頭型の貝を指す呼び名です。陸貝は地域による固有種が多く、地域ごとに身近なカタツムリの種類が異なります。金生山化石館のある岐阜県大垣市では、イセノナミマイマイというカタツムリが最も一般的です。また畑の野菜類には、ウスカワマイマイもよく見られます。これらマイマイの仲間のカタツムリは総じて



イセノナミマイマイ（左）

ヒダリマキマイマイ（右）

右巻きです。関西のクチベニマイマイやセトウチマイマイ、関東のミスジマイマイも同様に右巻きです。けれども、豊橋市を模式地とするミカワマイマイや関東地方に多いヒダリマキマイマイ、秋田県のミチノクマイマイや青森県のムツヒダリマキマイマイなど、マイマイの仲間には左巻きの貝も多くみられます。大垣市近辺でも山地に入るとヒラヒダリマキマイマイという左巻きのカタツムリが見つかります。こうした左巻きのマイマイ類は、全国的にみると西日本には少なく、東日本には多く見られるという特徴があります。

マイマイ類とは別に、陸貝には細長い形をしたキセルガイの仲間がいます。なんと不思議なことにキセルガイの仲間はほとんどが左巻きです。ですからキセルガイの仲間では右巻きの貝には、キセルガイモドキ、フトキセルガイモドキのような名がつけられています。



ナミギセル（左）  
キセルガイモドキ（右）

金生山の巻貝化石は、アカサキエラやゾンガスピラ、ナチコプシスなどすべて右巻きです。これまでのところ、金生山で左巻きの巻貝化石は見つかっていません。中生代のアンモナイトには、異常巻きとよばれるものに右巻きと左巻きが存在することが知られています。また、キセルガイ科の出現は白亜紀ということですから、中生代の終わりころには左巻きの巻貝がいたようです。

長い歴史をもつ腹足類ですが、左巻きが出現したのはいつ頃なのでしょう。



## お知らせ



### 後期企画展

### 「山にも貝がいた！ —金生山の陸産貝類—」

金生山の山頂にある明星輪寺境内は、陸貝の生息として岐阜県の天然記念物に指定されています。

金生山では50種を超える陸貝の生息が確認されていますが、この中には固有種と呼ばれるこの地域独特の種や、絶滅の危機に瀕している種も含まれています。

企画展では、金生山の陸貝以外にも、珍しい形や色彩の貝、大きな貝や小さな貝など様々な陸貝を展示して、陸貝について興味深く解説します。

**期 間 10月8日（土）から1月30日（月）**

問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)

Email [kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp)